

## [平成28年度 施策評価シート] 南風原町まち・ひと・しごと創生総合戦略

基本目標	1. 若い世代の子育て環境をととのえる					
施策	(1)子どもが安心して育つ環境づくり					
施策の基本方向	こどもが安心して育つ環境の充実に向け、保育基盤の拡充、貧困、不登校、非行などにより、こどもが社会的に孤立することを防ぐとともに、行政と地域、NPO、民間企業等との連携による成長に応じた切れ目のない支援体制の構築を図る。					
【KPI】 事業の評価を図る指標  【Do】 主な事業の実績・取組状況	重要業績評価指標(KPI)	現状値	H28年度	目標値 (H31年度) * 28年度	評価 ①順調に進行 ②一部進行捗 ③停滞 ④ -	【Do】主な事業の実績・取組状況
	・待機児童数	127人 (H27.4.1)	150人 (H29.4.1)	(0人) * 76人	②一部進行	・認可保育園2園の新設(着手)、1園の増改築(着手)、1園を増築(H29. 4月開園)した。やまかわ保育園(新設:60名増の予定)、ももの木保育園(新設:60名増の予定)、マイフレンズ保育園(増改築:30名増の予定)、なのはな保育園(増築:30人増)  ※待機児童の解消に向けて、施設の新設及び増改築等により定数増を図っているが、子育て世代の転入増等で申込みも増えていることから、まだ待機児童の解消には至っていない。各年度の定員数及び定員数の増加数は次のとおり。 H27. 4. 1現在 定数1,280人(増加数10人) H28. 4. 1現在 定数1,388人(増加数108人) H29. 4. 1現在 定数1,502人(増加数114人)
	・子育て支援の取り組みについて満足している町民の割合	70.7% (H27年度)	-	(80.0%) * 74.4%	④ -	・こどもの医療費助成について、県内で初となる病院窓口での支払いの無料化(現物給付)を実施。 ・こどもの貧困対策事業において、こども課内に支援員を2人配置し、支援の必要な子どもたちの情報が集まるようにし、その情報をもとに支援が必要な子どもについて週1回、関係機関で開く「キッズ会議」にて検討し、議論した上で子ども元気ROOMへと繋ぐスキームを構築した。 ・就学援助事業では、新しく「校納金」を援助費目に追加したことで、援助の充実に図ることができた。幼稚園就園援助事業では、4歳児保育にも対応した事により、援助人数が増加した。
関係事業一覧	【Do】事業の実績・取組状況		【Check】評価・取組の検証		【Action】取組の課題、解消に向けた今後の取組等	
①待機児童対策に向けた保育基盤整備事業	・やまかわ保育園(新設60人)着手、ももの木保育園(新設60人)着手、マイフレンズ保育園(増改築30人)着手、なのはな保育園(増築30人)平成29年4月開園		・南風原町子ども・子育て支援事業計画に沿って事業を進めており、1園は増築が完了、3園は材料価格の高騰に伴う入札不調による設計見直しや、不発弾処理等による工期の延長で予定時期の開園ができなかった。		・開園が遅くなった保育園の早期開園を目指すとともに、「市町村子ども・子育て支援事業計画等に関する中間年の見直しのための考え方の改定について」に沿って、本町の計画を平成29年度中に見直し、変更後の計画に沿ってさらに待機児童解消に取り組む。	
②こどもの健やかな成長を支える環境整備事業	・町においては、民生部と町社会福祉協議会との連携、さらに関係機関とのネットワークにより、子育て世代を包括的に支援するため、妊娠前から小中学生まで、切れ目のないフォロー体制を確認し全体像を整える作業に入っている。		・「南風原子育て世代包括支援の仕組み(南風原版ネウボラ全体像)」の考え方が関係課で確認できた。今後は、事業の全体像が目視できるように整える作業に入る。学校においては、相談員の配置として、町教育相談員1名、小中学校に心の教室相談員4名を配置して業務を行った。また、特別教育支援員は、幼稚園へ10名、小学校へ35名、中学校へ6名の配置を行った。さらに教育支援委員会で96名の審議を行っている。		・切れ目のない支援を行うためには、情報の共有が必要不可欠で、その手段として町HPの整理とアクセスの容易さなどが課題となっているので、今後は関係課と連携して解決に向けて取り組む。学校における発達支援を必要とする子どもへの取り組みとして、作業療法士(OT)の活用について検討する。また、特別教育支援員については、当初からの配置が出来ていない現状があることから、人材確保について取り組んでいきたい。	
③こども医療費助成の充実事業	・平成29年1月から、県内で初となる病院窓口での支払いの無料化(現物給付)を実施。		・こども医療費の現物給付については、経済的な理由で病院に行けない家庭があることが課題として挙がっていたので、その対応策も目的の一つとして実施。また、養育に欠ける保護者もいることから、病院に行く子どもの権利を保障する意味でも現物給付は重要な施策だと捉えている。保護者からは高い評価をいただいている。		・今後は、母子父子家庭医療費についても現物給付に向けて県と調整を進める。	
④こどもの貧困、社会的孤立の防止に向けた支援体制の構築事業	・こども課内に子ども元気支援員を2人配置し、支援の必要な子どもたちの情報がこども課に集まるようにした。そして集まった情報をもとに支援が必要な子どもについては週1回、関係機関が集まって開く「キッズ会議」にて検討し、議論した上で子ども元気ROOMへと繋ぐスキームを構築。年間に寄せられた相談件数は472人。実際に元気ROOMで支援を受ける子どもたちは、25人~30人。それ以外は、ほとんどが見守りでの対応を続けている。		・元気ROOMで支援を受けている子どもについては、そのほとんどが支援がなければ不登校になっていたと思われる背景を有している。また、発達段階で必要とされる経験を積んでいない状態なので、元気ROOMでの支援は児の成長に必要な場となっている。		・現在2ヶ所で連携して実施している子ども元気ROOM事業について、成果と課題を整理する。また、町内4ヶ所にある児童館の夜間活用も視野に入れ、いろいろな形態の居場所も模索する必要がある。	
⑤生活困窮世帯に対する支援の充実事業	・就学援助事業では、新しく「校納金」を援助費目に追加したことで、援助の充実に図ることができた。幼稚園就園援助事業では、4歳児保育にも対応した事により、援助人数が増加した。		・就学援助事業では、新しく「校納金」を援助費目に追加したことで、援助の充実に図ることができた。援助率については周知強化を開始する時期が少し遅く、明確な増減等は見られなかった。幼稚園就園援助事業では、4歳児保育にも対応した事により、援助人数が増加した。		・就学援助事業では、援助率が増加していること、援助費目の早期支給に課題がある。今後は、さらなる周知強化及び入学に係る費用等を入学前に支給できるよう取り組んでいく。幼稚園就園援助事業では、援助人数の増加に対応できるシステムの整備が課題となっている。今後は、システムで管理できるよう取り組んでいきたい。	

[平成28年度 施策評価シート] 南風原町まち・ひと・しごと創生総合戦略

基本目標	1. 若い世代の子育て環境をととのえる					
施策	(2) 生きる力を育む教育環境の充実					
施策の基本方向	次代を担う子どもたちの生きる力を育む教育環境の充実を図る。					
【KPI】 事業の評価を図る指標	重要業績評価指標 (KPI)	現状値	H28年度	目標値 (H31年度) * 28年度	評価 ①順調に進行 ②一部進行捗 ③停滞 ④ -	【Do】主な事業の実績・取組状況
	【Do】 主な事業の実績・取組状況	・将来の夢・目標を持っている小学生・中学生の割合	小学校86.2% 中学校75.0% (H27年度)	小学校91.0% 中学校81.0%	(小学校88.0%) * 小学校86.9% (中学校77.0%) * 中学校75.8%	①順調に進行
関係事業一覧	【Do】事業の実績・取組状況		【Check】評価・取組の検証		【Action】取組の課題、解消に向けた今後の取組等	
①小中学校、幼稚園における教育環境の充実事業	・町立幼稚園において4歳児保育開始に伴い、加配保育士4名及び預かり加配保育士4名を配置した。 小中学校へ学習支援員13名、小学校へ英語指導助手4名、中学校へ適応教室指導員2名及び自立支援教室指導員2名を配置した。		・学習支援員の配置については、全国学力・学習状況調査の結果において町平均正答率が小学校において全国及び県平均を上回ることの一助となっている。		・一部配置できていない学校もあることから、人材確保等に取り組んでいく。	
②次代を担うひとづくりに向けた学習機会等の拡充事業	・小学校においては、総合的な学習の時間を活用して20職種の方々からキャリア講話を行うなどの取組を行った。 又、中学校では高校入試の模擬面接で起業の担当者へ面接官を依頼するなどの取組を行った。		・キャリア講話については質疑応答などを行いその職業への理解を深めることが出来ている。又、模擬面接においても生徒から「アドバイスが参考になった。」との声があることから効果を上げていると判断できる。		・多様な職種に対応出来るように取り組んでいく。	